

科 目 名	言語文化	普通科必修 1 年次・2 単位
目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指します。	
位 置 づ け	高校国語の基礎的科目として、次年度以降の必修科目「論理国語」「古典探究」の土台となる科目です。文法的な知識や文章の背景にある文化や歴史の知識は、的確に作品を理解するために欠かせないものです。言葉を正しく理解しようとする姿勢を身につけましょう。	

■使用する教材 ・教科書『精選 言語文化』（第一学習社） ・参考書『完全マスター古典文法』（第一学習社）、『わかる・読める・解ける Key&Point 古文単語 330』（いっずな書店）、『基礎から解釈へ 漢文必携』（桐原書店）、『新国語便覧』（第一学習社） ・問題集『完全マスター古典文法準拠ノート』、『基礎から解釈へ 漢文必携 チェックノート<基本編>』		■学習する単元とおおよその時期 1. ㊥古文入門/㊦漢文入門/㊧小説【4～5月】 2. ㊥随筆/㊦故事成語/㊧小説【6～8月】 3. ㊥歌物語・和歌/㊦詩文/㊧詩歌【9～10月】 4. ㊥日記・随筆/㊦史伝/㊧小説【11～1月】 5. ㊥軍記物語・俳諧/㊦思想/㊧伝統と文化【2～3月】	
■授業の流れ、予習・復習を含めた学習方法 ①予習：指定教材を読み込む。（意味調べ、など） ②復習：語句の意味、文法事項、現代語訳など、知識・技能領域を再確認する。 ③授業：【古典】現代語訳を基に作品を読解し解釈する。 【現代文】作品の構造と表現効果について理解する。 【共通】作品に表れているものの見方・考え方を理解する。 文学史上の評価について理解する。			

■観点別評価について

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	A 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、日本の言語文化に対する理解を深めている。	・論理的に考えたことや深く共感したり豊かに想像したりしたことを適切に説明できる。 ・他者との関わりの中で自分の思いや考えを適切に伝え合うことができる。 ・自分の思いや考えを広げたり深めたりしたことを適切に表現できる。	・言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。 ・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようとしている。 ・日本の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
	B 授業で扱った国語の知識や技能を身に付け、日本の言語文化を理解している。	・論理的に考えたことや共感したり想像したりしたことを説明できる。 ・他者との関わりの中で自分の思いや考えを伝えることができる。 ・自分の思いや考えを広げたり深めたりしたことを表現できる。	・言葉がもつ価値を理解しようとしている。 ・読書に親しもうとしている。 ・言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
	C 上記が達成できていない	上記が達成できていない	上記が達成できていない
評価の場面	単元テスト、小テスト、課題の提出内容	単元テスト、課題の提出内容	授業中の参加状況 課題の提出内容

■領域ごとの授業時間数について

単元名	1 ㊦ 古文入門／㊧ 漢文入門／㊨ 小説	2 ㊦ 随筆／㊧ 故事成語／㊨ 小説	3 ㊦ 歌物語・和歌／㊧ 詩文／㊨ 詩歌	4 ㊦ 日記・作り物語／㊧ 史伝／㊨ 小説	5 ㊦ 軍記物語・俳諧／㊧ 思想 ／㊨ 伝統と文化	
書くこと	1	1	1	1	1	5 時間
読むこと（古典）	9	9	9	9	9	45 時間
読むこと（現代文）	4	4	4	4	4	20 時間

■単元テスト実施計画（予定）

	時期	内 容	教科書
1	5 月	古文：歴史的仮名遣い、古語、動詞の活用	「児のそら寝」
2	6 月	漢文：返り点の理解（訓読及び訓点を付す）	漢文入門
3	7 月	古文：用言の活用、品詞分解。	「枕草子」
4	9 月	漢文：訓読及び頻出の句法	「故事成語」
5	10 月	古文：助詞・助動詞、和歌に関する基礎知識 小説：登場人物の心情理解	「伊勢物語」 「羅生門」
6	11 月	漢文：漢詩に関する基礎知識及び読解	「唐詩の世界」
7	12 月	古文：頻出の助動詞、用言の活用、品詞分解。	「平家物語」
8	2 月	古文：頻出の助詞、助動詞、品詞分解 漢文：訓読及び頻出の句法	「平家物語」 「史伝」

※進度及び知識の定着度合いにより、実施回数や範囲を増減したり、実施時期を変更したりします。

■自己評価について

授業評価と連動させた Google フォームで、実施します。

- ・評価の3観点について／自身の取り組み方について